

彗星課月報

Monthly Report of the Comet Section, April, 2009

課長 関 勉 T. Seki

幹事 松本敏一 T. Matsumoto 幹事 佐藤裕久 H. Sato

4月の状況 (佐藤)

☆ C/2009 F6 (Yi-SWAN) (写真 a)

4月7日朝着の IAUC 9034 と同夜着の IAUC 9035 によると、4月4日、Rob D. Matson は、SOHO ウェブサイトにある紫外線の SWAN イメージから彗星らしい天体を発見した。小惑星センターの NEO Confirmation Page に掲載後、Felix Hormuth (Almeria, スペイン, 1.23-m 反射, はっきりした芯のある 1'.5 のコマあり) や井狩康一氏 (滋賀県守山市, 26-cm f/7 反射, 0'.7 のコマあり) ら多数の CCD 位置観測者や Juan José González Suárez (Burgos, スペイン, 眼視観測, 15-cm 反射, 6' のコマあり) によって彗星であることが確認された。しかし、IAUC 9034 ではまだ名前が確定していなかった。

この彗星に関して、3月28日、山岡均氏 (九州大学) は、李大岩氏 (Dae-am Yi, イ・デアム, 韓国江原道寧越郡) が、Canon 5D と 90mm f/2.8 レンズによって約 80 秒間隔で 60 秒露光の 2 枚からめばしい緑がかった 1' のコマのある彗星発見の電子メールによる報告を受け取ったと中央局に知らせた。軌道計算によって、この彗星は C/2009 F6 と同じであることがわかった。

これに先立って IAUC 発行前、彗星課メーリングリスト (以下 oaa-comet ML) に、筆者から NEOCP に SWAN09 という明るい天体が発見されていることを知らせ、続いて SWAN 画像の動画と新彗星に矢印をつけて案内した。

また、この彗星を発見した李大岩氏は 2006 年奥州市で開催された OAA 総会・日韓アマチュア天文家親善交流大会に出席されていたことや、山田義弘氏が「天界」2006 年 11 月号の 682 頁以下に李氏を詳しく書いていることを伝えた。

9日、大島雄二氏 (長野市) から oaa-comet ML に精測と「コマがたいへん大きいです。」とのコメント、そして画像の案内が報告された。

26日、宇都宮章吾氏 (熊本県阿蘇郡) から oaa-comet ML に C/2007 N3 の眼視報告とともに「C/2009 F6 (Yi-SWAN) には、なんども 15-cm 双眼鏡を向けたのですが、観測できないままです。(見えない)」とのコメントがあった。

眼視観測は、国内では少なく、緯度の高い欧州での観測が大半であった。
 ☆ C/2009 G1 (STEREO) (写真 b)

4月10日着の IAUC 9036 によると、Karl Battams (米国海軍研究所:NRL) は、Jiangao Ruan が4月3日の SECCHI HI-1B イメージに 10~11 等の拡散し尾のない彗星を発見したと通報した。

門田健一氏 (埼玉県上尾市, 0.25-m f/5.0 反射) は、4月10日の早朝 (JST) 東天の低空に CCD 全光度 10.6 等の同彗星を捉えた。この観測によって軌道が改良された。その後、国内でも多く精密位置観測が行われ軌道が安定してきた。なお、STEREO の位置精度については、以前 oaa-comet ML で門田氏が「HI-1 のピクセル分解能は、35 秒角ほどですので、最良でも数秒角、恒星に重なると分解能の倍以上の誤差は出そうです。視野が広いため、歪曲収差などの誤差もあるのかもしれませんが。観測衛星の画像から発見、検出された場合は、軌道の精度には要注意ですね」とコメントされていた。

○ 眼視観測報告

C/2006 W3 (Christensen)

2009	UT	m1	Dia	DC	Tail	p.a.	Trans.	Seeing	Instru.	Observer	Note
Apr.	2.79	10.1	0.9'	4	-	-	4/5	-	79×30-cmL	永島和郎	
	22.74	9.9	1.1	6	-	-	4/5	3/5	79×30-cmL	永島和郎	
	26.72	9.7	2.5	6	-	-	5/5	2/5	49×32-cmL	張替憲	光害下
	28.78	9.7	2.7	6	-	-	3/5	4/5	49×32-cmL	張替憲	

C/2007 N3 (Lulin)

2009	UT	m1	Dia	DC	Tail	p.a.	Trans.	Seeing	Instru.	Observer	Note
Apr.	19.50	11.0	1.1'	2	-	-	3/5	-	79×30-cmL	永島和郎	
	23.48	10.6:	1	3/	-	-	3/5	3/5	25×15-cmB	宇都宮章吾	
	26.46	10.8	3.0	4	-	-	4/5	3/5	49×32-cmL	張替憲	光害下

C/2009 F6 (Yi-SWAN)

2009	UT	m1	Dia	DC	Tail	p.a.	Trans.	Seeing	Instru.	Observer
Apr.	6.80	11.5	1.5'	-	-	-	-	-	22×15-cmL	関勉
	17.47	11.0	0.6	2	-	-	3/5	-	61×30-cmL	永島和郎

22P/Kopff

2009	UT	m1	Dia	DC	Tail	p.a.	Trans.	Seeing	Instru.	Observer
Apr.	22.78	12.2	0.7'	2	-	-	4/5	3/5	79×30-cmL	永島和郎
	26.72	9.7	5.5	2	-	-	5/5	2/5	49×32-cmL	張替憲

116P/Wild

2009	UT	m1	Dia	DC	Tail	p.a.	Trans.	Seeing	Instru.	Observer
Apr.	26.54	11.8	2.6'	3	-	-	5/5	2/5	78×32-cmL	張替憲

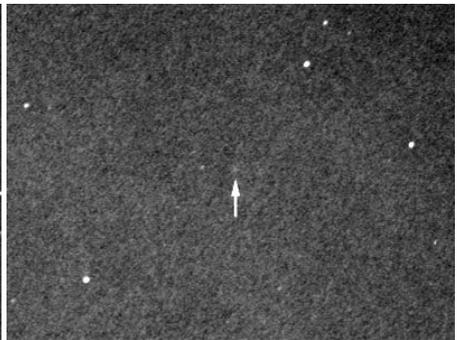
○ 4月に検出された彗星

- ☆ 218P/2009 F7 = 2003 H4 (LINEAR) 3月31日、LINEAR チームは、P/2003 H4 の検出を報告した。光度は 19.4 等であった。4月15日、G. Sosterо, E. Prosperi, E. Guido, と P. Camilleri は、0.35-m f/7 "Skylive" 反射望遠鏡 (Grove Creek 天文台, Trunkey, ニューサウスウェールズ州) の遠隔操作により得た画像からこの彗星の検出を報告した。30枚重ねた画像には中央集光と 15"近い拡散したコマがあった。MPC 56804 と 2008/2009 Comet Handbook の予報に対する修正値は $\Delta(T) = -0.13$ day であった (IAUC 9038, 2009 Apr. 15)。
- ☆ 219P/2009 H1 = 2002 LZ₁₁ (LINEAR) 4月17日、E. Guido, G. Sosterо, P. Camilleri と E. Prosperi は、P/2002 LZ₁₁ を RAS 天文台 (Mayhill 近郊、ニューメキシコ州) の 0.25-m リモート反射望遠鏡で検出した。光度は 18.8 等で、約 12" の非常に小さいコマと西に 25" 近く伸びた尾があった。翌 18 日には、アリゾナ州 Sonoita 近郊の Iowa Robotic 天文台の 0.37-m リモート反射望遠鏡でも観測した。MPC 59599 と 2008/2009 Comet Handbook の予報に対する修正値は $\Delta(T) = -0.4$ day であった (IAUC 9039, 2009 Apr. 18)。

その他比較的明るい彗星は、C/2009 E1 (Itagaki)、C/2008 T2 (Cardinal)、C/2006 OF₂ (Broughton)、67P/Churyumov-Gerasimenko、29P/Schwassmann-Wachmann、144P/Kushida、65P/Gunn などであった。



(写真 a) C/2009 F6 (Yi-SWAN) 2009, 04, 22
4h12.0m-22.0m (JST) exp. 60s × 7 TOA130+CCD
三重県伊賀市上野 田中利彦氏



(写真 b) C/2009 G1 (STEREO) 2009, 04, 22
4h26.0m-30.7m (JST) exp. 60s × 4 Sky90+CCD
三重県伊賀市上野 田中利彦氏